

社説

両陛下下の比訪問

天皇、皇后両陛下が26日からフィリピンを訪問される。

太平洋戦争の激戦地である。国交正常化60周年を迎え、国際親善の促進が主な目的だが、慰霊碑や戦没者の墓にも足を運ばれる。皇后さまと「慰霊の旅を続けてきた陛下の「戦争で亡くなった人々を追悼したい」との強い思いがうかがえる。

両陛下は、皇太子ご夫妻時代の1962年にフィリピンを訪問されたが、即位後はない。歴代天皇として初めての公式訪問となる。

天皇陛下は昨年8月の全国戦没者追悼式で、定型化していたお言葉を変え、先の大戦に対する「深い反省」という表現を盛り込まれた。82歳の誕生日の際には「さまざまな面で先の戦争のことを考えて過ごした1年だった」と振り返られた。

戦後70年の節目に、歴史に学び、戦争の記憶を次世代に伝えていくことの大切さを繰り返し訴えられ、国民に強い印象を残している。

両陛下は、戦後50年に沖縄、広島、長崎で犠牲者を追悼し、戦後60年にはサイパンを訪れた。昨年4月にはパラオを訪問し、日米の慰霊碑の前

共有したい平和への願い

で深く拝礼された。

日米両軍の決戦の舞台となったフィリピンでは、民間人を巻き込んだ悲惨な戦いが繰り返された。現地住民100万人以上が命を落とし、日本人も約51万8千人が亡くなった。現在は最も親日的な国の一つとされるフィリピンだが、終戦直後は激しい反日感情があった。

多くの犠牲者を生んだことから両陛下は慰霊の思いを以前から持ち続けていたという。昨年6月、フィリピンのベニグノ・アキノ大統領を迎えた宮中晩さん会で、天皇陛下はこれまで触れたことがなかったフィリピンの戦争被害に言及、「私ども日本人が深い痛恨の心と共に、長く忘れてはならないことです」と述べられた。抱いてきた気持ちをそのまま示す言葉だったのだろう。

今回の訪問も両陛下の思いを反映した日程となった。27日はアキノ大統領と会見した後、フィリピン人戦没者が眠る無名戦士の墓に供花する。29日は日本政府が建てた日本人戦没者の慰霊碑に花を手向ける。

80歳を超えてなお慰霊の旅を精力的に続けられる両陛下の姿には、過去に向き合い、平和を願う気持ちがにじむ。私たちも歴史を直視し、その思いを共有していきたい。

2016.1.25

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① この社説の筆者は、天皇、皇后両陛下がフィリピンを訪問され、慰霊碑や戦没者の墓にも足を運ばれることにより、陛下のどのような思いがうかがえると書いていますか？

- ② 今回のフィリピン訪問の日程について書かれているところの線を引きましょう。
- ③ この記事を読んだ感想を書きましよう。